

Morisawa Magazine

2021 | SPRING

春号

2020年1月13日(金)、漫画家・イラストレーターの安倍吉俊先生をゲストに迎え、株式会社セルシスとの共催でオンラインコラボイベント「安倍吉俊のクリエイティブワーク大公開! 人気イラストレーターが考えるフォントのイメージ」を開催した。今回のために描き下ろされた、「赤のアリス」をイメージしたオリジナルイラストについてなど、イベントの様子を紹介する。

P5 { クリップスタジオ×モリサワ } iPadツール初コラボイベント開催

株式会社モリサワは2021年3月より新しい期を迎えました。代表取締役社長の森澤彰彦より新年度のご挨拶です。今後とも変わらぬご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

P8 新年度のご挨拶

毎回ゲスト講師陣を迎え開催しているMORISAWA PASSPORT ユーザ限定公開講座【FONT COLLEGE】。2020年はコロナ下での開催となったため、Vol.4~6はオンラインで行われた。フォントの活用法やデザインのヒントが得られる内容を、少しご紹介。Vol.4~夏のトーカー日~ 講師:大日本タイポ組合(秀親氏、塚田哲也氏) Vol.5~文字からつくる世界観~ 講師:佐藤亜沙美氏、モデレーター:武田俊氏 Vol.6~2020年新書体徹底解剖SPECIAL~ 講師:大崎善治氏、宮田愛子氏、岩井悠氏、富田哲良

渡邊克志朗 タイプデザイナー

P6 モリサワ社員インタビュー

みなさんがさまざまな場面で目にし、使っていただいているモリサワフォント。今号から、フォントのデザインや開発などの裏側に密着し、「モリサワの中の人」に焦点を当ててご紹介いたします。第一回はフォントデザイン部フォントデザイン課のタイプデザイナー・渡邊克志朗氏に、日々の仕事内容や、書体開発にかける想いなどを語ってもらいました。入社してからは気づいた、自分は文字が好きなんだということ。直感を大切に、目線を変えて文字と向き合う。「これは自分がつくりました」といえる書体を増やしたい

P6 豪華ゲストが登場【FONT COLLEGE】



モリサワ社員インタビュー

[Vol.01] タイプデザイナー 渡邊克志朗

みなさんがさまざまな場面で目にし、使っていただいているモリサワフォント。
今号から、フォントのデザインや開発などの裏側に密着し、「モリサワの中の人」に焦点を当てて紹介していく。
第1回目はフォントデザイン部フォントデザイン課のタイプデザイナー・渡邊克志朗に、
日々の仕事内容や、書体開発にかける思いなどを語ってもらった。

入社してから気づいた、 自分は文字が好きなんだということ

渡邊氏は2015年にモリサワ文研株式会社に入社。現在はモリサワのタイプデザイナーとして、主に和文書体のプロジェクトに携わっています。学生時代にプロダクトデザインを学んでいた渡邊氏が文字に携わったのは入社してから。入社してからの研修期間は、原字*1を手で書く「文字デッサン」と呼ばれる研修など、しっかりと知識や技術を深めていきました。実務は入社2~3年目のあたりからというのが通常で、渡邊氏も2年目の後半から徐々にプロジェクトに参加するように。

これまでに手掛けたのは多言語書体「Clarimo UD」シリーズや「A1ゴシック」などですが、なかでもとくに、多言語書体の開発はなかなか難航したそうです。まずは、外部に発注する際に、他者に希望通りの文字をつくってもらうというディレクションの難しさ。また、日本人が感じる“読みやすさ”が必ずしも現地の人にも通じるわけではありません。完成間際に現地の人からコメントが入り急遽変更するといった対応を含め、多くの微調整を繰り返して完成したと話してくれました。そして、元から「A1明朝」が好きだっ

た渡邊氏にとって「A1ゴシック」の制作は印象深い出来事の一つ。「入社前から、ゴシック体もあればいいのになあ」と思っていて、会社に入ったらちょうど制作していたところだったので驚きました。少しですけれども自分も関わったので、個人的にとっても思い入れがある書体ですね。」

入社するまでまったく経験したことのない書体開発という分野でしたが、渡邊氏は自身が学生時代に学んできたものづくりの姿勢とも共通点を感じながら、スムーズに溶け込んでいくことができたといいます。「学生時代はプロダクトデザインが専門で、デザイン思考についても勉強していました。デザイン全般に役立つことを多く学んできたので、具体的にこの技術が、というよりも、ものづくりの考え方が今の仕事につながっているのかなと思います。」と渡邊氏。また、子どもの頃から漫画を読みながら文字に違和感を感じたこともあり、仕事をしながらこれまでのいろいろな経験を思い返していくうちに、「自分は文字が好きだったんだなあ」と気付かされたそうです。

*1 原字：金属活字、写植、デジタルフォントなどの原型となる文字のこと



(上、左下) 書体のイメージをデッサンする渡邊氏。
(右下) 渡邊氏愛用の筆記具。

直感を大切に、目線を変えて文字と向き合う

制作環境について尋ねると、コロナ下で仕事の環境は変わったとはいえ、PCがあればできる仕事が多いので大きな問題はないと感じているようです。テレワーク移行前から使っていたゲーミングチェアや、ペンタブレット、アナログでの作業に使うシャープペンシルなど、愛用の道具に囲まれて、のびのびと作業ができているとのこと。

書体開発は3人ほどのチームで分担して行われ、「かな」「漢字」などそれぞれ担当が決められた文字を一文字ずつ作り進めていくのが、タイプデザイナーの日々の仕事です。「1日に何文字ずつつくっていくのか?」という質問に対しては、「1日に20個進めばいいという書体もありますし、つくりやすい書体だったら、今日は100個進めよう、と意気込むものもあります。」と。1日にどれくらい進んだか、進捗に気を配りながら、少しずつ作業を進めていきます。

「どんな文字がつくりづらいですか?」と尋ねると「考え方が二つあるんです。」とのこと。作業量だけで考えると、画数が多いものは時間がかかるが、画数の少ないものはバ

ランスが取りづらい、というように、取りかかる書体や文字によって着眼点が異なります。文字としての格好良さだけでなく、組んでみた時の格好良さ、それぞれを両立させるための緻密なチェックや長期間の調整が書体開発の難しさであり、同時にやりがいであるともいえそうです。

「完成が見えづらく、なかなか終わりが見えない作業ではありますが、もともと、プラモデルのようにコツコツと物をつくるのが好きな性格でした。だから、文字をつくることにはまったのかもしれませんが。」

普段の作業で意識していることは、まずは先輩から教わったことやコツは大切にすること。そして「自分がつくった文字が一般人の目線で本当に読みやすいかどうか」。文字をつくる時の「デザイナーの目」と、何も知らずにその文字を見たときに読めるかどうかという“一般人の目”、それぞれを意識しながら目を切り替えていくと、「あれ?」と気づく文字があり、その違和感や直感を大切にしているそうです。



(左上) 書体開発はチームで行われる。現在、渡邊氏は自身のアイデアをベースとしたデザイン書体を手掛けている。
(左下) 多言語書体の開発時の資料。多くの微調整を繰り返した。
(右) 将来の目標についてにこやかに語る渡邊氏。

「これは自分がつくりました」といえる書体を増やしたい

日々、文字に真摯に取り組みながら作業を進めている渡邊氏。「今の仕事が好き」という実感を持ってからこそ、いろいろな苦勞も前向きに取り組もうと思えるのだといいます。また、現在手掛けているのは渡邊氏のアイデアをベースにしたデザイン書体ということで、かねてよりデザイン書体の開発に興味があったこともあり、自分が主軸となって書体を生み出すことに喜びを感じながら仕事をしているそうです。好きなことと仕事のバランスは、働く多くの人考える共通のテーマ。心から好きだと思える仕事と出会えるのはとても運命的なことのように思います。「今の仕事を好きでいられるのは、どんな分野に対しても好きなポイントを見つけられる、という自分の性格も大きいですね。」と渡邊氏。常に前向きな気持ちでいること、素直に目の前のことに取り組むことの大切さが感じられます。

また、渡邊氏はプライベートでも創作活動を行なっています。イラストや漫画、音楽やプラモデルなど、そのジャンルはさまざま。休みの日はしっかり遊び仕事の時は仕事に向

き合う、というように、生活のメリハリも大切にしながら、積極的に仕事を続けたいと話してくれました。「日々の生活で書体に対して思うことはありますか?」という質問に対し、「アンテナは立てているけれどそこまでは意識していません。文字というのは日々目に触れるものなので、身の回りで見たいものに対して感じたものを大切にしています。」とのこと。日々感じたことが知らず知らずのうちに、制作のアイデアにつながっているのかもしれません。

今後の目標は「自分が手掛けたといえる書体を増やしていくこと」。「これは自分がつくりました、といえるってすごく素敵なことだと思うんです。これからもこの仕事を続けて、そんな書体を少しずつ増やしていきたい」と、意気込みを力強く語ってくれました。

渡邊克志朗 わたなべ・かつしろう - タイプデザイナー
株式会社モリサワ フォントデザイン部 フォントデザイン課所属。
モリサワ文研株式会社にて、多言語書体やA1ゴシックの開発に携わったのち、株式会社モリサワで主に和文書体のプロジェクトに従事。

クリップスタジオ×モリサワ iPadツール初コラボイベント 「安倍吉俊のクリエイティブワーク大公開！ 人気イラストレーターが考えるフォントのイメージ」を開催

2020年11月13日(金)、漫画家・イラストレーターの安倍吉俊先生をゲストに迎え、株式会社セルシスとの共催でオンラインコラボイベントを開催した。その様子を紹介する。



(左) 本から飛び出す「赤のアリス」の文字 (右上) ゲストの安倍吉俊先生 (右下) iPadを使用したライブドローイングの様子

ご自宅が職場でもある安倍先生。iPadを使ってリビングで作業することも多いそうで、場所を選ばずクリエイティブワークができる充実した制作環境をご紹介いただきました。

そして、今回のために特別に、2020年リリースの書体「赤のアリス」をイメージしたオリジナルイラストが描き下ろされ、イベント中にはライブドローイングを交えて解説いただきました。安倍先生がイラストを描く上で注意するポイントは、「視線の誘導」。見る人ができるだけ長く画面の中に滞在してもらえるような作品づくりを心がけているそうです。またイラスト中には実際に「赤のアリス」の文字が使われていて、フォントの持つかわいらしさや独特の世界観を、見事に描き上げています。

後半はモリサワのタイプデザイナー2名が登場。まずは「赤のアリス」の制作を担当した半田藍が、書体制作プロセスを紹介しました。「赤のアリス」は「非日常的世界観に」というイメージのもとスタートした、見出しなど短文を組むた

めの書体です。欧文のデザインから着想を得たという独特の装飾によって、かわいらしく、明るい印象を与えます。

「赤のアリス」が似合いそうな場面

僕と約束して魔術師になろうよ!

▲ 不穏な願いをやんわりと表現

パプルンプピルンポッパムブン

▲ 呪文など、非日常的世界観を表す

続いて渡邊克志朗のテーマは「漫画で使えるモリサワフォント」。大声や重要なセリフを強調させたい時は太いゴシック体、心の声を表す時などに使うモノローグには丸ゴシック、最大限強調したい時の「新ゴシャドウ」、勢いのあるセリフには「ぶらっしゅ」など、すぐに活用できる実用的なラインナップを教えてくださいました。



安倍先生のイラスト制作の過程やこだわりなど、詳しいイベントレポートはnoteまで
<https://note.morisawa.co.jp/n/n0da3d133fd53>



使用したフォントアプリ「MORISAWA PASSPORT for iPad」についてはこちら
www.morisawa.co.jp/products/fonts/mpapp/



豪華ゲストが登場 MORISAWA PASSPORT ユーザ限定公開講座 [FONT COLLEGE Vol.4,5,6]をレポート

毎回ゲスト講師陣を迎え開催している[FONT COLLEGE]。
2020年はコロナ下での開催となったため、Vol.4～6はオンラインで行われた。
フォントの活用法やデザインのヒントが得られる内容を、少しご紹介。



▲Vol.6より、左から大崎善治氏、宮田愛子氏、岩井悠氏、富田哲良

Vol.4 夏のトーコー日

講師：大日本タイポ組合（秀親氏、塚田哲也氏）

タイポグラフィ集団「大日本タイポ組合」の秀親さん、塚田哲也さんを講師としてお招きしました。はじめに、似ている文字同士を並べて文字の形そのものを味わう、お二人が手掛けられた新しい絵本『もじかけえほん かな?』が取り上げられました。見開きに書かれた「さら」の文字が、上半分のページをめくると、なんと「もち」に。「さ」と「も」、「ら」と「ち」、それぞれ下半分が同じ形のまま、別の文字に変わってしまいました。「昨今はすぐに電子書籍で文字を読める時代だけど、実際に紙を加工して、手に取らないと楽しめない絵本をつくりました。」とお二人は語ります。

他にも、イベントのDMや子ども向けの塗り絵コンテンツ、漫画の装丁など徹底した雰囲気づくりがなされたデザインワークがたっぷり紹介されました。



▲大日本タイポ組合の秀親氏(左)、塚田哲也氏(右)



▲お二人が手掛けた絵本『もじかけえほん かな?』(偕成社)

Vol.5 文字からつくる世界観

講師：佐藤亜沙美氏 モデレーター：武田俊氏

ブックデザイナーの佐藤亜沙美さん、モデレーターにフリーの編集者である武田俊さんをお迎えし、ブックデザインにおけるフォントの機能やお仕事の魅力について語っていただきました。

佐藤さんの仕事の流れは、まず編集者や著者からオファーが来て、次に作品のレイアウト前のゲラを「自分が一番最初の読者」という気持ちで読み、デザインのイメージを膨らませます。イメージをもとに造本プランを提出し、ディスカッションを重ねます。佐藤さんが楽しいのは、「本の遊びどころ」を考えている時。「ここだけは譲れないポイント」を絞って、値段や部数といった制約の中で遊び切る。そうすることで、「書籍が生命力を持つ」そうです。

ブックデザインにおける書体選びで大切なのは、イラストは柔らかくするけれども書体は緊張感を持たせる、といったメリハリづけ。これによって書籍のセオリーを崩し、本にキャラクターを与えていくことができるとお話しいただきました。

Vol.6 2020年新書体徹底解剖 SPECIAL

講師：大崎善治氏、宮田愛子氏、岩井悠氏、富田哲良

グラフィックデザイナーでモリサワの新書体見本帳を制作されている大崎善治さん、大日本印刷株式会社 秀英体開発部の宮田愛子さん、有限会社字游工房のタイプデザイナー 岩井悠さん、モリサワのタイプディレクター 富田哲良の4名に、2020年11月にMORISAWA PASSPORTに追加された各社の書体開発ストーリーや新書体見本帳の制作について語っていただきました。

字游工房書体が数多く追加された今回の新書体。大崎さんが手掛けた見本帳を見た時、岩井さんは「イメージ通りのものもあれば、反対に驚くようなワードもあり面白かった」と話し、各書体の特徴や開発の裏話など普段あまり聞くことのできない貴重なお話も聞かせていただきました。

また視聴者からの質問「書体制作で譲れないポイント」について、富田は「デザイナーのこだわりを最大限尊重しつつ、制作の目的とコストをしっかりとすること、お客様の声をデザインに反映していくことを心がけています。」とコメント。宮田さんは、「秀英明朝の“い”のつながっている線を切らないこと」と、一筆書きの“い”のように、秀英体らしさを持ち続けていくことが譲れない点だと話されました。

秀英にじみ明朝

見上げた空に 見上げた空に
キレイな虹が キレイな虹が

秀英にじみ明朝

秀英明朝 L

▲佐藤さんが好きな書体は「秀英にじみ明朝」。

もともと佐藤さんは、文字の「にじみ」を実現するため、非常にアナログな手法を用いて、苦労したそう。「秀英にじみ明朝」は、活版印刷による紙面上でのインクのにじみを再現した書体。



▲武田俊氏(左)、佐藤亜沙美氏(右)

あをによし
そよかぜゆれる
春のこもれば

たそがれどき
おばあちゃんの知恵袋
思い出が香る絶品ワインゼリー
おとうふハンバーグ
絵巻物からみる平安という時代
はいからモダン

▲2020年新書体見本帳より「游明朝体36ポかな」のページ。「たそがれどき」や「おばあちゃん」など、情感あふれる言葉選びが際立つ。



各回のレポート全文はnoteにてご覧ください。
その他、書体開発秘話や特別インタビューなど
読み応えたっぷりの記事を多数掲載しています。



新年度のご挨拶

株式会社モリサワは2021年3月より新しい期を迎えました。
代表取締役社長の森澤彰彦より新年度のご挨拶です。



昨年度は、近年まれに見る大きな転換点となる一年となりました。新型コロナウイルスの発生から、瞬く間に世界的な感染拡大という未曾有の事態となり、当社もさまざまな影響を受けました。一方で、新たなワークスタイルを確立する一年でもありました。多くのお客様の間で在宅勤務が定着し、当社でもMORISAWA PASSPORTのインストール条件を緩和するなど、この動きに合わせた施策を実施するなどの対応を行いました。今年度も、引き続きお客様の働き方の実態や変化に柔軟に対応し、より使いやすい製品やサービスの設計を行ってまいります。また業界を問わず、日本全体で先行きが不透明な状況は続きますが、新型コロナウイルスにより引き起こされたパラダイムシフトを恐れず、新たな事業機会として前向きに捉えていきたいと考えております。

このように社会環境や時代が大きく変化する中ではありますが、来たるポストコロナに向けた種まきは既に始めております。今年度も、「文字を通じて社会に貢献する」という社是のもと、新たなフォントの利便性と価値を提供する取組みを進めてまいります。和文フォントのラインナップをさらに充実させることで、加速する社会の多様化に対応します。また、多言語フォントの開発にも一層注力し、海外での事業拡大にも重点的に取り組んでまいります。

今年度もモリサワは、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーのみなさまの期待に応えるべく、社員一同邁進いたします。今後も変わらぬご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社モリサワ 代表取締役社長 森澤彰彦

MORISAWA PASSPORT

豊富な書体バリエーションを常に最新のフォント環境で利用できるライセンス製品です。



フォント男子!



業界初!?フォント擬人化コメディ漫画開幕!
Webコミックサイト「ヤングエースUP」にて無料掲載中!



お問合せ・ご要望は

ブランドコミュニケーション部広報宣伝課 E-mail: pr@morisawa.co.jp

WebサイトでのMorisawa Magazine閲覧は

www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news

次号は 2021年6月発行 です



●今号のフォント

本文: A1ゴシック L、UD新ゴNT (AP版) L / R

見出し: 見出ゴMB31、リュウミンB-KL / EB-KL、
黎ミンY20 B、UDデジタル教科書体 B、
Lutes UD PE Bold / ExtraBold



株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel: 06-6649-2151
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-27 Tel: 03-3267-1231
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel: 022-296-0421
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel: 052-201-2341

札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6 サウスシティ2F Tel: 011-700-0112
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel: 092-411-5875
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田ビル2F Tel: 099-252-2255